祭りでつながる絆

通称「ぎおんさん」と親しまれているぎおん祭りは、毎年７月中旬の土・日曜日に津島神社で行われます。「槍の五千石平野は光る…」の田原本音頭にうたわれるぎおん祭りは、「大和の大坂」と呼ばれるほどの豊かな財力をもとに、古くから盛大に行われてきました。

今月号では、ぎおん祭りの歴史を振り返るとともに、人々の絆を取材しました。

祭りの軌跡

ぎおん祭りは、どのように行われてきたのか。現在、ぎおん祭りに関わっている３人に集まってもらい、座談会を開きました。

仮装行列に変わり、田原本音頭の踊りを中心に町内を練り歩く（昭和54年）

語りとして参加していた服部さんの祖父・秀吉さんと父・一夫さん

津島神社境内で行わていた人形浄瑠璃。ひと目見ようと大勢の人が集まった（昭和初期）

――浄瑠璃が行われていたと聞きましたが。

松本さん　私が幼かったころ、浄瑠璃が大好きでよく見に行っていました。津島神社の亀池の西側に舞台があって人形の動きに併せて語りが行われていました。当時、ぎおん祭りは7月7日～14日まで1週間あって、毎日浄瑠璃が行われていました。

服部さん　父親から聞いた話ですが、テレビもないしラジオもない時代でしたから、この浄瑠璃は楽しみだったようです。本格的な衣装を着て三味線を引いて、私のお父さんとおじいさんが浄瑠璃の語りをしていました。町内に浄瑠璃の先生がいらっしゃったので、そこで教わっていました。当時の大人の人たちは、発表するのが楽しくて一生懸命、語りを練習していたようです。

鈴木さん　江戸時代中期ごろから始まったと聞いています。当時の田原本は、問屋が多く物資の集積地があり人が集まりやすいところでした。またこの浄瑠璃をやっていたこともあり、田原本のぎおん祭りは有名だったんですよ。ところが、世の中にテレビや他の楽しみが出てきたこともあり、昭和30年代初めごろまでは演じられていたようですが、役者もいなくなってしまいました。

――立山というものが町内に飾られていたそうですが。

服部さん　立山を見に行くのが楽しみで、私が小学生くらいのとき家族で町中を見て回ったんです。ものすごく精巧なつくりの立山があるので、毎年どんなものが飾られるのか楽しみでした。こういった目につくものが町に飾られていたので、今以上に祭りに来る人が多かったように思います。

松本さん　その年の出来事を形にしていましたよね。例えばロケットが打ち上げられた年には、ロケットの形をした立山がありました。町の電気屋さんなどがいらっしゃるところだと、電動の立山があり、毎年楽しみでした。空き地や広い家の土間、作業場などを利用して、飾られていました。

鈴木さん　産土神（うぶすながみ）に現在の世相を見ていただくということで、毎年テーマを定めて作られていました。各町が競い合うように、その時代を反映した立山が出されていました。昭和の終わりごろ、ぎおん祭りの舞台に人気芸人が来られるということで、その芸人さんの立山を作られた町がありました。する

祭りでつながる絆

服部誠（はっとりまこと）さん

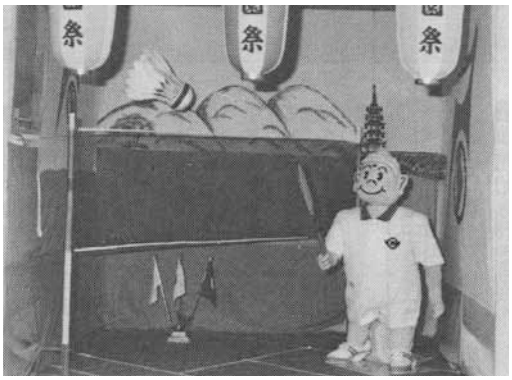
町観光協会役員、町商工会理事、町桃太郎会会長。66歳。戎通二。さまざまな形でぎおん祭りに関ってきた。

鈴木幸兵（すずきこうへい）さん

町観光協会会長、町古事記1300年紀実行委員長。72歳。橿原市。町を盛り上げるためさまざまな行事を企画している。

松本荘司（まつもとそうじ）さん

町民夏祭実行委員長。80歳。室町三。長年自治会長を努め、ぎおん祭りに関わってきた。現在は委員長として祭りに参画している。



若草国体が奈良県で開催される前年に作られた立山。マスコット坊やの「やまとくん」（昭和59年）

商工会青年部員による仮装行列（昭和50年ごろ）

と、本人が見に来られて、ものすごい人だかりになったことがありました。

――仮装行列が行われていた時期があったとか。

服部さん　昭和47年くらいのとき、祭りが下火になってきていたので、商工会青年部で祭りを盛り上げようと、衣装、カツラを用意して本格的な化粧をして仮装したんです。私もおいらんの格好をしました。50人ぐらいで、津島神社から出発して、町内を練り歩きました。町長と商工会長にも、一番いい役で参加してもらっていました。

松本さん　6、7年続いてから、町民夏祭りという形で、いろんな団体に呼びかけて、商工会青年部が中心になって町民パレードが行われました。町民広場から一斉に出発して町内を踊って回りました。ギャルみこしやサンバなども行われたことがありましたね。

――近年では町内の団体が舞台を行っていますね。

松本さん　地元の祭りなので、ヒップホップダンスや吹奏楽など地元の団体が発表できる場にしていくことが大事だと考え、参加していただいています。

服部さん　中学校の吹奏楽部や田原本吹奏楽団が熱心に活動されています。一生懸命練習して上手になってくると発表したいと思うようになると思うんです。祭りで発表したことは大人になっても覚えていると思います。大人になったときに、自分たちの子どもに引き継いで行ってほしいですね。

鈴木さん　地域の活性化を考えると、一般の人みんなが参加できるような参加型イベントにしていくことが大事だと思います。観光協会でも風流舞（ふりゅうまい）「奏楽（そうら）」がいろんな行事で発表してくれています。毎年行っていくと、輪が広がって参加してくれる人も増えるのではないでしょうか。

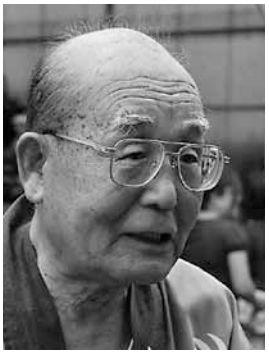
服部さん　子どもや孫が祭りに参加している様子を親が一生懸命写真に撮られています。これが親子の会話につながりますし、一つの宝物になります。中和最大の祭りとして知られるぎおん祭りを後世に残していきたいものです。

松本さん　ぎおん祭りの舞台に参加した小さい子どもたちが、大きくなったときに行事に関わってくれる気持ちを養っていくことが必要かなと思います。ぎおん祭りが県下では大きな祭りだったので、時代にあった祭りにして、まち全体を盛り上げていきたいです。

だんじり・みこしに込められた思い

祭りの日になるとだんじりやみこしが町内を練り歩きます。古くは50年以上前からみこしが出されています。今もなお、だんじりやみこしを出して祭りに参加している自治会や団体に思いを聞きました。

旭町



旭町自治会長
猪原洋一（いはらよういち）さん

約40年前、屋形を作り周りに飾りを付け、廃車の台車に取り付けただんじりを作りました。15年経過したころに、遊園地のアトラクションで使用されていた太神楽の頭をいただき今の形になりました。子どもを乗せて大人が引いて町内を巡行します。少しでも町を元気づけ活気に満ちた町にしたいと思い、祭りに参加しています。今後も伝統文化として後世に残していきたいです。

戎通三

戎通三自治会長
竹村和勇（たけむらかずお）さん

約30年前にみこしを始め、ほとんど大人が担いでいました。20年ほど前に担ぎ手が減ってきたため、台車にみこしを乗せるようになりました。子どもたちが自治会の行事に参加でき、コミュニティが充実するよう、7年ほど前に船型の台車に作り替えました。元気な子どもたちが参加することで、両親や祖父母の楽しみが増し、またコミュニケーションの場となっています。

郭内

郭内自治会長
山本雅俊（やまもとまさとし）さん

約30年前に大和高田市にあっただんじりを譲ってもらいました。150～200年前のもので、足回りのみ改良を加えています。

祭りの日になると外孫さんが帰ってきて地域の活性化が図れますし、何より子どもたちの思い出づくりになります。田原本にも昔の古いだんじりがあることを知ってもらい、楽しんでいただきたいと思います。

祭りでつながる絆

❶こうやって叩くの？❷津島神社でお祓い❸マイクを使って掛け声の練習❹太鼓をたたいて盛り上げる❺私疲れちゃった❻途中で水分補給❼ももだんじりの上から眺める❽お父さんに抱かれて祭りに参加❾手作りのみこしを元気いっぱいに担ぐ❿50周年を迎えた杉の子会のみこしの背面には、元会員や会員の手形が押されている⓫大きな声で「ワーショレッ」⓬掛け声に併せて鐘を鳴らす

50年以上前から行っています。当初は普通のみこしを担いでいましたが、平成9年に「ももだんじり」を作りました。最近では子どもの数が減ってきています。しかし、祭りの日になると、外孫を連れて戻ってきてくれます。私が子どものころの楽しかった思い出があるように、今の子どもたちの思い出になるように、今後も続けていきたいと思っています。

平成23年から祭りに参加しています。宝船の上に「ももたん」をはじめ、猿、鳥、犬を乗せて引っ張ります。これは鬼退治に向かい、宝を持って帰ってくることをイメージして作りました。

まちおこしで桃太郎会を作ったので、祭りを盛り上げるように参加しました。桃太郎会の会員や一般の方の子どもも参加できますので、町中の子どもたちが思い出づくりができます。

戎通二自治会長
田原本町桃太郎会会長
服部誠（はっとりまこと）さん

子どもみこしを始めて約40年経過しました。杉の子会では、毎年、その年の出来事に合ったみこしを子どもたちが工夫して作っています。今年のテーマは杉の子会誕生50周年です。このみこしは、お金をかけずに廃品を利用し作っています。こうしたことから長く続けられているのかもしれません。参加したいという子どもがいる限り続けていきたいと思います。

杉の子会相談役
奥村憲蔵（おくむらけんぞう）さん

❶最後の決めポーズ❷楽器によって強弱をつけて演奏する❸カラフルな衣装でダンスを披露❹マイクパフォーマンスで会場を盛り上げる❺小学生も参加❻ソロパートで魅せる

今年のぎおん祭りは どんな楽しみが あるのかな？

祭りでつながる絆

❼満面の笑みでダンス❽みんなの心を一つに❾激しいダンスで髪がなびく❿息の合ったダンス⓫ステージに魅了される⓬⓭射的や輪投げを楽しむ⓮燈花会のある道を歩いて⓯夏祭りといえばかき氷⓰友達と会話がはずむ⓱津島神社で家族で願いごと

7月21日・22日の両日、今年もぎおん祭りが盛大に行われました。午後5時30分ごろ、津島神社一帯に浴衣姿で歩く人が見かけられるようになりました。津島神社境内には露店が立ち並び、周辺にはイルミネーション燈花会、ちびっこ広場、お化け屋敷、うまいもん市などさまざまな催しが行われました。

22日にイベント広場で行われた町民夏祭りの夕べでは、町内の団体がダンスや吹奏楽を披露。まず、ヒップホップダンスが行われ、激しく美しいダンスで会場を沸かせました。次に行われた田原本中学校・北中学校吹奏楽部の合同演奏では、さまざま楽器の音色の調和に会場が魅了されました。田原本吹奏楽団の演奏では、キューティーズが音楽に合わせて可愛い踊りを披露し、最後のポーズが決まると、会場は大喝采で包まれました。

催しに参加した団体は、練習の成果を披露することで、技術が向上するとともに仲間の絆がより強固になりました。家族や友人と会場を訪れた人たちも、催しを見たり、露店で買い物をしたり、ゲームをしたりして絆を深めていました。